

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 24 章 36～43 節＞

## 1 (36-43) 弟子たちの疑いは私たちの疑いと同じ。

イエス様が復活されたことを聞いてもなかなか信じられなかった弟子たちは、その主ご自身が目の前に現れられてもまだ信じられなかったのです。なぜか？「亡霊を見ているのだと思った」(37)からです。私たちは自分が理解できないことは受け入れられませんし、理解できるように考え直そうとします。ここではそれが「亡霊」、すなわち、「見えている気がするが、本当は存在しないのだ」と思うことでした。主はそれに対して、「なぜ、うろたえているのか。どうして心に疑いを起こすのか」(38)と言われたのです。神様がなさることに私たちの理解を超えていることがあるのは当然です。それをいつまでも「不思議がって」(41)いてはなりません。本当に大事なものはその次のこと、すなわち、神様がイエス様を復活させられたことの意味を考えることだからです。

## 2 (44-49) イエス様の復活が持つ大きな意味、大きな使命。

弟子たちがようやく落ち着いて聞く耳を持つようになった時に、イエス様は語り出されます。その内容は、①イエス様の復活までの歩みは旧約聖書にすでに記されていること、そして、主は「聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて」(45)、②神様の方に向き直して歩む生き方が与えられたこと（「罪の赦しを得させる悔い改め」(47a) 罪の赦し：神様を見ないで自己中心的に生きて来たこと、悔い改め：神様への方向転換)。それを、神様が私（イエス様）を復活させられたこと（人間にとって驚きの業）の中に見て信じなさい、とイエス様は呼びかけて下さっているのです。そして、③この福音(good News)は全ての人々に向けられたこと(47b)、④弟子たちにその伝道の務めが託され、神様がそれを託されたことをしっかり捉えた時、それはなされて行く（ルカの次の書、使徒言行録のテーマ）こと。これら4つのことが、復活された主が語られた大事なことなのです。 コロナウイルス蔓延の重苦しい状況の中でイースターを迎え、このイエス様の復活に込められた4つの意味を思い巡らせたことは、神様からの大きなプレゼントではないでしょうか！